

第 1 2 回
市立病院評価委員会

令和 8 年 7 月 2 3 日

箕 面 市 議 会

目 次

●市立病院評価委員会（令和８年７月23日）

協議事項 1	アンケート最終結果について	評－ 2
協議事項 2	評価のとりまとめ等について	評－ 5
協議事項 3	その他	評－30

● 日 時 令和 8 年 7 月 23 日（木曜日）
午後 1 時 0 分開会
午後 3 時 29 分閉会

● 場 所 箕面市議会委員会室

● 出席した委員

委 員 長	中 嶋 三四郎 君	副委員長	田 中 真由美 君
委 員	金 森 いずみ 君	委 員	山 根 ひとみ 君
〃	浦 川 倫 子 君	〃	武 智 秀 生 君
〃	藤 田 貴 支 君		

● 欠席した委員
な し

● 審査した事件

協議事項 1	アンケート最終結果について
協議事項 2	評価のとりまとめ等について
協議事項 3	その他

午後1時0分 開会

●中嶋委員長 皆さん、こんにちは。

ただいまから市立病院評価委員会を開催させていただきます。

委員の皆様には定刻にお集まりをいただきまして、ありがとうございます。

本日は全員出席でございますので、委員会は成立をいたしております。

また、資料は事前にサイボウズのほうで共有をさせていただいておりますので、そちらのほうをご覧ください。

それでは、早速でございますが、本日の協議事項はその他も含めて3件ございますので、順次、これに沿いまして進めさせていただきます。

協議事項1 アンケート最終結果について

●中嶋委員長 まず、協議事項の1つ目、アンケート最終結果についてを議題とさせていただきます。

皆様のお手元にもアンケートの最終集約結果を共有させていただいておりますが、ざくっと概要的に、まず事務局のほうから説明をさせていただきます。

●議会事務局 アンケートの概要について説明させていただきます。

まず、別紙1のほう、アンケート結果本体のほうの表紙をご覧ください。

こちら、実施時期なんですけど、4月3日の金曜日から5月20日の水曜日までの48日間実施いたしました。アンケートの回答数なんですけど、全部で827件となりまして、内訳につきましては、L o G o フォームでの回答が751件、返信用封筒による郵送での回答が76件となりました。この返信用封筒による郵送というのは、70歳以上の市民を無作為抽出し、200人へ郵送で配付いたしまして、同封されていた返信用封筒で返送いただいた方が76件ということになります。後ほどまた協議事項のアンケート回答状況で詳細を説明いたしますので、この表紙の下のほうをちょっとご覧いただきまして、今回、自由記述のことやその他のことについて、赤字で3点記載しております。アンケートを取り扱う上でご留意いた

だきたいと思っておりますので、ちょっとこちらで説明いたします。

まず、1点目が原則として原文を記載していますが、明らかな誤字は修正しております。2点目ですが、自由記述は、回答者の感じ方や受け止め方に基づく内容が含まれています。そのため、ほかの資料等への引用はお控えください。なお、明らかに事実と異なる内容については、必要に応じて注記を添えています。3点目が、個人が特定される情報は秘匿処理していますということで、3点書かせていただいておりますので、ご留意をお願いいたします。

また、アンケートの28ページ以降は自由記述となるんですが、自由記述がかなり数も多かったんです。スタッフに関すること、ソフト面のサービスに関すること、ハード面のサービスに関すること、その他の大きく4つのカテゴリーに分類しております。同一人物の回答が複数のカテゴリーに当てはまる場合でも、いずれか一つのカテゴリーに分類しております。

以上がこの別紙1の概要なんですけれども、この別紙1のアンケート結果につきましては、市議会のホームページや箕面くらしナビ等で公表済みであることと、あと、ご協力いただきました箕面市医師会、歯科医師会、薬剤師会等にもお礼とともにご報告済みです。

ちょっと協議事項01のほうに戻りまして、こちらでご説明させていただきます。冒頭のほうでも、全部で827件の回答があったこととL o G o フォームでの回答が751件、返信用封筒による郵送での回答が76件と報告しましたが、このL o G o フォームの751件の回答のうち、こちらに書いてありますのが、箕面くらしナビ、ポスターやチラシ等のQRコードを読み込んだ回答者が744人で、90.0%。70歳以上の無作為抽出で郵送により送付した対象者のうち、返信用封筒ではなくて、L o G o フォームで回答いただいた方が7人、0.8%という結果になっております。以上のことから、L o G o フォームで回答した方というのは、全体の9割を超えている状況です。

次に、L o G o フォームの回答者の年齢について、

次のページのほうをご覧ください。こちら、L o G o フォームで回答していただいた751人のうち、50代、60代、40代の順に回答者が多いという結果になっております。60代から80歳以上のこの3つの方々に関しましては、表の中に母数というのを記載しているんですが、これは、例えば70代の方はL o G o フォームでの回答者は115人なんですけれども、郵送も含めた全70代の回答者数が母数163人となっております、70代の全回答者のうち115人、つまり7割、70.1%を超える方がL o G o フォームでの回答であったという意味になっております。同様に、80歳以上では、L o G o フォームでの回答者は20人ですが、郵送を含めた80歳以上の全回答者が母数47人となりまして、そのうち20人、つまり42.6%、4割を超える方がL o G o フォームでの回答だったという形になります。

なお、60代の方につきましては、郵送の対象者数は70歳以上の方だけだったので、60代の方は、基本的には全員L o G o フォームでの回答者となるはずなんですけれども、欄外の米印のほうにもちょっと記載していますとおり、郵送による回答者の方、すなわち70代か80歳以上にチェックするはずの方なんですけれども、年齢のところで60代にチェックされて回答されていたということがありまして、回答されたとおりの内容で集計した結果、母数と回答者数に1名のずれが生じているような状況です。

以上、簡単ではございますが、アンケート結果についての説明とさせていただきます。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

最終の集計結果のうち、回答の状況、それから、回答いただいた皆様の年齢の構成や回答の手段について少し補足をいただきました。

改めまして、前回のアンケート作成用のアンケートにお答えをいただいた以上のご回答を今回いただくことができましたので、ご回答いただきました皆様、それから、先ほどありましたように、三師会はじめ、委員の皆様もそうですが、今回、ポスター掲示という形を取らせていただきましたので、そのことで発信をいただいた、ご協力をいただいた皆様も

含めまして、改めて感謝を申し上げておきたいと思います。

ということで、協議事項1の最終集計については、まず、説明は以上とさせていただきますが、何かご質問等ございますでしょうか。

どうぞ。

●金森委員 ご説明ありがとうございました。

このアンケートの結果というのは、この後、市のホームページとかで市民の方に公開はされる予定ですか。

●議会事務局 アンケート結果につきましては、もう6月30日に、市の中の市議会のページに結果として公表済みです。

●金森委員 ありがとうございます。いつかなというのを聞かれていて、ごめんなさい、6月30日でチェックできていなくて、申し訳ないです。じゃあ、そのようにお伝えします。市議会のホームページからでいいですね。分かりました。

あと、9割の方がL o G o フォームでということで、今回、紙のやつを病院のほうに置かなくて、基本、L o G o フォームでという話だったので、70代以上の方に送付されている分が限定的な人数やったので、9割。その中で、高齢者の方も一定数、L o G o フォームで回答されたんやなということが今回分かったんですけれども、また、前回とは違って、ポスターとかチラシとかでも周知を図ったので、すごく、122人も回答されていて、お届けしてよかったんとか、思う次第ではあるんですが、一方でやっぱり、今回、紙はないのか、紙があったら答えたかったのというお声も、すごくたくさんと言われたら、たくさんではないけれども、少なからずあったということはお報告させていただきたいなと思っております。

今後、紙はもう復活するのかしないのかというのは、もう前回で、しないということは確定なんですかね。今回の実施のときに、もう病院に置かないということは確定ということでよろしかったですか、その1点だけ確認、お願いします。

●中嶋委員長 紙の扱いにつきましては、後ほどの

協議事項の中で少し皆様にお諮りしたいと思っていますので、そのときに併せてちょっとお話をさせていただきたいと思います。

ほか。

どうぞ。

●浦川委員 ありがとうございます。集計、大変だったんだろうなと思っているので、ありがとうございます。

さっき市議会のホームページで公表しているという話だったんですけど、いつも新着とか、トピックとかに上げてもらっていたような気がしたんですけど、今回、何か会議情報・結果みたいなのところに、この市立病院評価委員会の取った市立病院に関するアンケートの結果が載っているんで、ちょっと階層が深いかなと思ったので、もし、今日終わった後とかにトピックとか、新着に載せてもらったら、もうちょっと結果が分かりやすいかなと思ったりしたんですけど、それはどんな感じですか。

●議会事務局 すみません、市議会のホームページに市立病院評価委員会のページがありますので、そこに全てアンケートも、今回のこういう会議の資料もずっと全部一つにまとめて上げていますので、今回のアンケート結果も、前回と同じように上げているので、ちょっと今回特別に、何かあんまり公開されていないような形で上げているという認識はありません。以上です。

●浦川委員 上げていないとかじゃなくて、ぱっとスマホで見たときに分からなかったってよく言われていたので、何かトピックとか新着に「集計結果が出ました」とかでリンクを飛ばしてもらったら、分かりやすいかなって思いましたという、751人ぐらい回答していただけていたので、評価委員会のページに何か市議会のホームページのトップのところの新着かトピックから飛べたらいいかなと思ったので、もし可能だったらお願いしたいなというところでした。

●中嶋委員長 ちょっと委員長のほうで一回預らせていただきます。

ちなみに、先ほども少し触れましたが、まず、お

答えをいただいた方、それから、ご協力いただいた皆さんにつきましては、直接、データもしくは現物、もしくはそこにアクセスできる直接的なアプローチを返させていただいております。その前提で、ホームページのほうにも公開をさせていただいておりますので、トップページから見にくいというのは確かにそうなのかもしれないので、ちょっと調整はさせていただきますが、基本、ホームページへの掲載事項は、広報委員会の部会のほうが決定をする流れになりますので、ちょっとそちらとの調整も含めて、一度預らせていただきます。

どうぞ。

●山根委員 すみません、今後のために、ちょっと確認させていただきたいんですけども、70代、80代の方のL o G oフォームの回答数と、あと、郵送の中での、郵送の中にQRコードが書いてあって、そこからL o G oフォームで、返送ではなく、L o G oフォームで回答という数字が入っていますけど、これはどうやって把握しているんですか。その70代、80代の方々が、ポスターとか何かほかのところで読み取ったのではなく、この郵送の紙を見たんだよというところまでいっていますか。

●中嶋委員長 じゃあ、ちょっと補足をお願いします。

●議会事務局 すみません、郵送で送って、紙で返ってきた方は、事務局のほうで別のL o G oのフォームを立ち上げて入力しているんで、別のほうでやった方は、もう本当に皆さんが展開しているQRコードのほうから入って、何で知りましたかというところに郵送によるアンケートという選ぶところがあるので、そこで選んで回答していただくと、その差で分かる形になります。

●中嶋委員長 一応、チェック項目から把握をしているということが、まず1点と、あと、年齢別のところを見ていただくと、郵送で送った方も含めて、70代、80代の方がどの程度、L o G oフォームで答えをいただいているかということ、母数として示させていただいておりますので、70代の方は母数が163名のうち、115名の方がL o G oフォームで回

答いただいていますので、過半数以上がお答えをいただいていると。これは、80代以上も比較的高いなと思ったんですが、母数が47に対して20名の方がL o G o フォームでお答えいただいているということが数字上は見てとれるということでございます。

ほか、どうでしょうか。よろしいでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

●中嶋委員長 それでは、協議事項1つ目のアンケートの最終結果につきましては、以上とさせていただきます。また後で時間があれば、途中で追加で聞いていただいても構いませんので、一旦、次に進めさせていただきます。

協議事項2 評価のとりまとめ等について

●中嶋委員長 協議事項の2つ目ですが、評価のとりまとめ等についてということで、別紙2と3をつけさせていただいておりますので、順次ご覧いただけたらというふうに思うんですが、まず、括弧1つ目の「評価のとりまとめについて」を議題としたいと思いますが、まず、別紙2のほうで、皆さんに確認をいただきました評価スキームについて、改めて別紙をつけておりますので、もし忘れていたら、ちょっと思い出しておいてください。

それから、レジュメにははっきり書いていないんですが、今日、ちょっと追加で皆様のほうにお諮りをしたいなというふうに思っておるんですが、スキームのほうを見ていただきますと、アンケートの結果に対しまして、追加の調査をするというフローが2つ含まれております。この2つは、提案型ということで、この委員会の中で各委員のほうからご提案をいただきまして、過半数以上の賛同を得られた場合、その調査を追加で行うということになっております。

アンケート結果公表後、皆様のほうに、サイボウズで、この提案をL o G o フォームからご提出くださいということで通知をさせていただきました。その締切りを7月8日ということで送らせていただいておりますが、8日の締切以降に、浦川委員から提案を提出いただいております。今日、別紙のほうで、昨日かな、追加で皆様のほうにも資料を共有さ

せていただいております。

まず、お諮りしたいのは、一応、期日を過ぎております。ですので、原則的にいうと、取り扱えないということにはなるんですが、ちょっと私だけでは取扱いを最終決め切れなかったので、今日、皆様にちょっと意見をお伺いをして、決めたいなというふうに思っています。

パターンとしては、今日、一応、資料を出していますが、提案としない場合は、本日の資料は参考資料ということで皆様に共有させていただいたという形が一つ、それからもう一つは、遅れて出したけども、提案として受け止めてもいいんじゃないかというのが2つ目のパターンです。ちなみに、2つ目のパターンに決めた場合は、当初は複数の提案が出てくることを想定していましたので、8月6日の日に別途会議の日を取っておりましたが、7月8日の時点で提案がありませんでしたので、その時点で、6日の会議の日程は一旦キャンセルをしています。

ですので、今日、提案として取り扱おうというふうになった場合は、本日、この会議の中で、提案内容の趣旨をご説明をいただき、皆様から質疑等をしていただいた上で、委員の皆さんの意見の集約をさせていただきたいなというふうに思っておりますので、その点も踏まえまして、まず、どう取り扱うかということについて、ご意見をいただけたらありがたいなというふうに思っております。ということですが、いかがでしょうか。ご質問でもいいですよ。

はい。

●田中委員 今の委員長の説明で、今日、提示されている理由は分かりました。

提案されている浦川委員に確認ですが、7月8日が締切りだったのが、14日に提出されているということなんですが、その14日に提出された理由を教えてくださいませんか。

●中嶋委員長 浦川委員、どうぞ。

●浦川委員 私の把握が違ったのかもしれないんですけど、7月8日までに提出した案件は、今日の会議で皆さんで共有するというふうに思っていて、7月8日以降に提出したものは8月6日の会議で諮る

ものだと思っていて、7月8日以降の提案は受け付けられないということは、私の中では思っていなかったもので、7月10日にアンケート原本の閲覧を全部しようと思ったんですけど、時間的に無理だったので、8割終わらせたんですけど、そのときに、集計であれって気になっていたところはあったんですけど、原本閲覧をしたら出てきた課題があったので、まず事務局のほうに、課題の提案の提出をしたいんですけど、L o G o フォームのほうが開かないので、どうしたらいいですか、これ以降に提案したら、10営業日前だったので、いつ私は提案したら間に合いますかというふうに確認に行ったら、7月8日以降は受け付けません。委員長と協議になりますと言ったので、私の趣旨を、その日中に委員長にご説明して、まず、どんなのが課題やと思うんですかという話だったので、A4のペライチぐらいで、私はこうだと思うので、こういう提案をしたいです、できましたら機会をいただけたら助かりますというふうに出したところ、このひな形で一度出してくださいとご提示していただいたのが7月14日だったので、7月14日に、皆さんで決めたひな形のほうに私の提案事項を再度記載させてもらって提出したという流れになります。

以上、説明なんですけど、いいですか。

●田中委員 だから、そもそもの締切りの捉え方を勘違いをしていたということでもいいのかな、締切日が7月8日だと思っていたなかったというふうに認識していたということですか。

●浦川委員 7月8日が締切りだというのは分かっていたんですけど、今日の議題にのる分が7月8日だと思っていました。なので、今日は結果をみんなで共有して終わりになる可能性があるから、次の8月6日に間に合うように提出したら間に合うと思っていたので、そういう理解だったんですけど、7月8日以降は提出ができない、提案は1回きりだというのが、ちょっとそんな話あったかは、私が聞いていなかったのかもしれないですけど、提案が10営業日前だというのは確認をしていて、集計したのも、7月1日か、6月30日に、多分、サイボウズで

来たので、それを確認して、原本を見てから提案することがあれば提案したいなと思っていて、原本を見る日の調整とかで、その日になったので、今日、提出する分、今日のテーブルにのせる分じゃなくて、次の分を出したいなと思ったというところなんですけど、説明になっていますか。

●田中委員 ごめんなさい、私がちょっと。ちょっと整理します。

●浦川委員 すみません。

●田中委員 一旦いいです。

●中嶋委員長 ほか、どうでしょうか。

どうぞ。

●山根委員 その8日以降に出された分は、仮となっていた8月の委員会で、もう削除されましたけど、そこでもんでほしいというのは委員長には申し出てらっしゃいますか。そしたら、もしかしたら消さなかったかもしれないじゃないですか、8月の委員会を。そしたら、これは8月、そもそもは、期限を守るのが大前提として、それで、その8日以降に出した分は、8月6日ですよという確認をされていないということかな。

●浦川委員 そもそも提案が1回きりだということではないと思っていたので、1回きりです、1回しか提案できませんというふうに会議で言っていなかったと私は思っていたので、例えば7月8日だって出たのは、前回の会議以降なんですけども、そうですよ、7月8日って前回の会議では決まっていなかったと思うんですけど、10営業日前に出しましょう、L o G o フォームとひな形で出しましょうというのは、ちゃんと皆さんで議論した中で決まったと思っているんですけど、これが1回きりですよということを私は認識していなかったもので、例えばこの集計していただいたものだけで、あっ、これはちょっと課題だなんて思うことがあったら、7月8日はそのときは決まっていなかったですけど、1回目に出して、今日のテーブルにのせて、それでもまだ違う観点もあるなって、いろんなものを調べて思ったら、もう一回出せるというふうに考えていたので、第1次締切りが7月8日で、第2次締切りがあって、

第3次締切りがあるのかなというふうに思って、問合せに行ったんです、8月6日が消えた、同じ日だと思うんですけど。行ったら、この7月8日がもう最後の提案のタイミングですと言われたので、あっ、そうなんですかって、そういう話でしたっけという話で、いや、できればこういう点を皆さんと共有できたら、このアンケートを取った意味があるかなって思ったので、協議できなくても提案はしたいので、一応見てもらえないですかというお願いをしたということなので。ちょっとは伝わりましたかね。すみません。

●中嶋委員長 伝わっていないのは、まず、提案が1回きりではないという認識に何でなっているのが誰も理解できていないんですよ。というのは、説明としてはかみ合わないので、別にこれ以上、説明は要らないとは思いますが、何でそういう理解になったのがまず理解できていないということだとは思います。

どうぞ。

●金森委員 すみません、私もこの提案が今回、この7月限りやというふうには、ごめんなさい、私も思っていなくて、読んで、提案が、それこそ、私も、私は出していないんですけど、聞いていて、なるほど、8月6日やと思っていてんな、それも1回限りでないやったら、8月6日にもう一回あったのであれば、議論できたのかなというふうに思っていたんです。なくなってしまったし、山根委員がおっしゃるように、8月6日でできませんかという確認をしていなかったのかと言われてたら、ああ、そうやなとは今思うんですけども、当初、8月6日があったので、そこでも議論できるものなんかなというふうに思っていました。だから、今回、提案されているものについては、今日じゃなくて、次の委員会で話し合うということ自体がもうないという理解ですか。

●中嶋委員長 そもそもを言いますと、次の委員会で話し合うっておっしゃっていただいているんですけども、それはどういうスケジュール感で考えておられるんですか。その場ですぐ提案して、その結論

を出せるという理解なのか、そもそも、今回、スケジュールを組んだときに、当初、8月に1回やるということに加えて、本日、この8日の締切りの段階で、提案が複数出てきた場合、当然、今日の予定の中でこなし切れない、もしくは、議論が尽くせない場合もあるということを想定して、後で8月6日を追加しているんですね、日程上。

つまり、7月8日の締切りを前提にした場合においても、8月6日、もしくは8月25日までの議論の時間を要するという前提でスケジュールを組んでいるんですよ。それが、仮に、それ以降も提案できるんだということであれば、8月が終われば、9月議会が始まるわけですが、この1年間のサイクルの中で、それぞれのそのタイミングで提案ができるということをやろうと思うと、少なくとも月に何回も提案があるたびに会議をやらないといけないという想定になると思うんですけども、そうなんだという理解をされていたということは、この場では否定はしませんけども、そうおっしゃるのであれば、どういう運営の仕方をイメージされているのかということが逆に疑問になってしまいますので、別に今日はその理由を問い詰めようというつもりで今諮っているわけではないんですね、ちなみに言いますと。

皆さんのご意見を聞きたいというのは、聞き方がちょっと悪かったかもしれませんが、少なくともほかの方は8日が締切りだという認識で、ご準備であったり、中身の確認をされていたというのは事実なので、その皆さんと比較した場合、少なくとも委員の皆さんに了解をいただかないと、委員長としては、締切り過ぎたけど、オーケーですよというふうに単純には、当然のことながら、言えないということに重きを置いているというだけですので、もちろん、判断するに当たって、今言ったようなやり取りが出てくるのは当然ですが、通常、送ったサイボウズを読んで、それ以降も提案が重ねてできるということは、逆に言うと、どこにも書いていない。認識が違ったなら、違ったでいいとは思いますが。ただ、書いていなかったからどうなんだという議論にはしないでいただけたらありがたいなというふうには思いま

す。

はい。

●浦川委員 前回までのときに、その一度限りですよというふうにアナウンスを私はされていないと思っていたので、そういうふうに認識をしていたということ……。

●中嶋委員長 なので……。

●浦川委員 いや、私は認識していたし、会議録も確認したけど、そういう、この提案が1回限りですよというふうにはアナウンスはなかったかなというふうに思っていたので、そこからのアクションは私が悪かったかもしれないんですけど、というところだけは、いつ決まったんですかということで、まだまだこういう声をいただいたので、声に対して、どんどん調べていったら出てくるものもあるし、集計だけで分かるところもあると思うので、日にちが、8日であって、閲覧ができるのがもっと前からできたんだったら、もしかしたら締切りも、私は7月8日というのは確認はしていて、分かっていたので、間に合ったかもしれないですけど、それがちょっとかなわなかったものもあるし、暦で合わなかったものもありますし、委員長に閲覧しますよって連絡したのと、日程調整と、私が個人で単発でやっていいのと、会派でみんなで合わせてやりましょうねというところと、いろいろなスケジュールがあって、この7月8日以降になってしまったというのは、言い訳に聞こえるかもしれないんですけども、一応、1回きりしか提案できないということは議論されていなかったかなというところで、お問合せをしたということで、もうこれ以上はあれなので、以上です。

●中嶋委員長 重ねて言いますが、1回しかできないということを決めていないという理屈は、何回もやっていいということを決めていないのと同じことなので、その点をご容赦ください。

その点は、もうここで重ねてこれ以上やるつもりはありませんので、提案として取り扱うかどうか、皆様のご了解がいただけたらというのが私の意見でございますので、取り扱ってもいいかどうかということをお少しご意見をいただけたらありがたいなと

思っております。

●藤田委員 本来は締切りは必ず守らないといけないし、全てにおいて、例えば一般質問の通告とかもそうなんですけれども、1分たりとも遅れたら、それは受け付けてもらえないというのは、これはもう我々のルールとして当たり前のことで、それを破るというのは非常に議会の今後の進行というのがなし崩しになってしまうということは、まず前提の上なんですけど、ただ、今回の取組というのは初めての取組ということもあって、浦川委員のお話を聞いていても、実際はもっと確認すべきことを確認しなかったからこうなったんだろうというふうには思うんですが、ただ、まあまあ、悪意があって遅れたというところでもなさそうでありますので、今回に限りということで、ほかの会議体もいろいろ締切りはあるにはしても、そこはきっちり守ることは前提で、今回に限り、初めてということもあって、受け付けてもいいのかなというふうには個人的には思っております。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

ほかの皆さんはどうでしょうか。

どうぞ。

●山根委員 何事も例外はつくるべきではありませんけれども、浦川委員の勘違いというか、こういうふうにしたんだというのを伺いましたので、こうすればよかったんだという反省点もご自身の中でおありだと思いますので、その7月8日以降に出して、8月にもんでほしいということであれば、7月8日の締め切り前に、それを越えてもいいですかというのは確認すべきだったなという、7月8日というのを把握されていますので、その前に、越しますよというアナウンスは必要ですよ。何も言わずに、越しちゃったんだけどというのは、よくないと思うんですよ。7月8日締切りだというのは分かっている、7月1日から閲覧できたわけですので、その締切りが来る前に、委員長に、8月分のために、その7月8日は越えますよというアナウンスは必要だったかなというのを、ご自身の中で落としてもらってという、言っている意味分かりますか。

●浦川委員 はい、言っている意味は分かります。

●山根委員 ですので、今回、せっかく提案されてきましたので、これを議論するのは、この委員会で、これ以降もうその機会がないとなれば、今日しかないと思いますので、議論してもいいかなとは思いますが、今後、あのときにはオーケーだったんじゃないかということにならないように、今回限りという、これもちょっと悩ましいところでもありますけれども、という気持ちです、私は。これが否決というか、却下されたら、もうこの提案はどこにもいかない可能性も出てくるということですよ。

●中嶋委員長 別に内容を全て含まないということではないので、仮に今回、参考だとしても、この中身の何かしらが最初の取りまとめに含まれることはあろうかとは思いますが、ご本人からすると、取り上げていただけなかったということにはなるかなとは思っています。

●山根委員 ですんで、今日、これに対してというのは致し方がないかなという気はします。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

ほかの皆さんは大体同じ。

どうぞ。

●田中委員 私も今回に限り、さっき理由も聞きましたが、今回に限り受け付けてもいいかと思いますが、今日のこの場で、もう一回ちゃんと、これ、毎年続くことなので、今年だけでアンケートが終わるわけではないので、毎年毎年やっていくことですので、もう一回、この場できちんと、その締切り、提案できる機会は1回ですよということをもう一回、皆さんの共通認識として確認をしていただければ、オーケーです。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

どうぞ。

●金森委員 ありがとうございます。すみません、私も勘違いしていた側なので。十分確認をしないといけないし、思い込んで、8月6日でいけるわと思っていた部分は私もあったので、山根委員がおっしゃるように、そうですね、8月6日に向けて出そうと思っていますという確認は必要やなと。何事にお

いても、二重、三重確認はしないとイケないなというふうな反省はいたしております。

資料を共有いただいて、読んでいったら、すごく大事なことやなっていることがたくさん提案されておりまして、ぜひ箕面で、全国で初めて議会が取り組むアンケートということで、市民の方からもすごく期待もあって、827名でしたっけ、の方がご回答いただいていますし、議会としても、指定管理に移ってということで、議決した議会としてもやっぱり追いかけていって調査して行って、より市民にとっていい病院になっていくというための大事な提案やと思うので、期限過ぎてしまったけれども、皆さんと一緒に調査して、共有していけたらなというふうに思っております。以上です。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

●中嶋委員長 では、おおむねご意見としては、提案として取り扱ってもいいと、今回に限りということのご意見をいただきましたので、委員長としては、期限は過ぎましたが、提案として取り扱わせていただきたいと思います。

ちなみに、皆さん酌んでいただけたので、あれなんですけど、そもそも別にこの諮り事をする必要性が僕にはないので、なぜ諮っているかということ酌んでいただけて、了解をいただいたということで、感謝を申し上げたいと思います。

それでは、先ほど言いましたように、本日、この参考資料として今出ておりますものについては、7月8日の期日でしたけども、提案資料として改めて取扱いをさせていただきたいと思います。

そうということで、この提案内容について、改めまして、ご提案いただきました浦川委員のほうから、内容につきましてご説明をいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

お願いします。

●浦川委員 皆様のご厚意で機会をいただきましてありがとうございます。

今回、事務局の方に集計していただいた集計結果

を読んでいたら、幾つか気になる点がありまして、それは、チェックを入れるほうの回答でも、食事のサービスの面と会計の点が不満って書かれている方も、全体的なんですけど、全体的におおむねいい、やや満足というのが、あんまり差はなかったんですけども、おおむね全体的に指定管理後に不満という項目が増えているところもありまして、その増えているなって、数的に爆発的にすごい伸びているということでもなかったんですけども、数字が上がっているのが、入院中の食事に関してと会計に関してのやや不満と不満というのが多いように感じたので、原本の閲覧をさせていただいたところ、普通の医療に関してのサービスとか、処置に関してのサービスでは満足、やや満足って記載されている方でも、食事に関してとか、会計に関しては結構不満とか、そういうチェックを入れている方が多くて、入れている方の自由記述とかが、ない方もいるんですけど、自由記述を書かれている方の中で出させていただきますと、集計の結果のほうにもあるんですけど、別紙1で集計結果が今回の資料に載っているんですけど、そちらの自由記述のほうで、43ページですかね、ちなみに、41ページからが指定管理が始まって以降の利用者というふうに分けていただいているので、これもとても分かりやすかったなというふうに思っておりまして、すみません、ページ間違えました、41ページの、まず3行目ぐらいに、入院中の食事がとてもお粗末、栄養士ではなく、調理のプロへの相談や工夫が必要というふうに自由記述が書かれております。

次に、先ほど申し上げました43ページの23という数字の横の会計の待ち時間が長いですね、受付の人がいつも忙しそうに走り回って処理をしているように見受けますという記載とか、24番の体調が悪い中、待つのは大変つらいものがありますというふうに、このように幾つか、給食に関することと、会計に関すること、ほかのページにもあるんですけども、記載がありまして、原本のほうでこれを書いている人のほかのチェック項目とかを見ていくと、男女関係なく、年齢層も別に高齢の方がチェックをかけて

いるとかでもなくて、いろんな年齢層の方が結構、給食と会計については不満を持たれているんだなというふうにすごい原本からも感じたので、何でこういうことになっているのかなというところは、もう少し深掘りしたほうがいいのかなというふうに思いましたというのが提案の概要です。

私が提案したい内容というのは、会計スピードの改善のプロジェクトといいますか、会計スピードの改善と、給食の改革。何で給食かという、箕面市の給食は、小学校給食とか、保育園給食とか、中学校給食もですけど、力を入れているというのをアピールしているのに、どうして医療の場ではおざなりなんですかという記載もあったので、私自身も、入院しているときというのは、景色を見るのとか、お食事の時間が唯一の楽しみかなというふうにも感じておりまして、市民目線が一番効いてくるのが、入院中の食事、あとは、外来の人にも関わってくる会計の部分かなと思いましたので、せっかく議会で調査していて、これだけの声とか、数値的にも出ているので、会計に関してと給食に関して、この2つをもう少し深掘りしてみてもどうかということ、具体的な提案の実施方法というのは、手書きのほうですごい分かりやすかったんですけど、直営時のときと、指定管理が始まって以降の方の両方、通年で利用されている方の回答をもうちょっと深掘りしてみたり、連絡先が記載されている方に、もし外来だけだったら、会計ってどういう感じでしたかって深掘りインタビューしてみてもいいだろうし、入院中の方だったら、ケアのほうは結構満足で回答いただいているんですけど、給食のほうとか、お会計のときとか、どうでしたかというのをインタビューしてみるという指標が一つと、あとは、会計に関しての自由記述で、先ほどもあったように、前に出ているスタッフさんだけが走っているということだったので、例えば箕面市立病院の会計のシステムだったら、外来のパターンだったら、外来で診療科を受けたら、診療科受付から紙みたいな受付票みたいなのをもらって、最後、会計の前で自分の番号が出たらお会計をするという流れになっているということなんで

すけど、その診療科の受付から、その方の今日の点数というか、そのデータが会計課に移ってからの処理というところが直営時と指定管理後では何が違うのかなとか、それに関わる職員の数だったり、利用しているシステムは同じなのかというところ。

あとは、昔も会計で待ちますという事例があったというふうに、昔の民生常任委員会とかの資料にあったので、もしかしたら処理の時間の記録などが残っているかもしれないので、そのパターンを抽出したのを比較してみて、関わっている人数が少なくなったから違うのかとか、関わっている人が経験が浅い人がやっているから遅いのか、それとも、システムが替わったのかとか、どういう、どこでつまづいて患者がお会計するのが遅くなっているのかなというところをもうちょっと掘れたら、ここを改善したらいいよねというのが、このアンケートをした意味の見える化ができるかなと思ったので、指標として、2つ目は、会計、これを出しました。

お食事に関しては、どうしても最近、病院のメニューが病院内に貼ってある献立表の紙しかないので、ちょっと確認はできていないんですけども、どんなメニューが出ていて、どんな食材を使っている、今どんな、物価高騰もあるので、どういう食材費が給食にあてがわれているのかなというところを確認するのと、近隣の病院とのメニューを比較したり、品数はあんまり変わらないと思うんですけど、見た目とか、味の、私たちが試食するというのができたら、ちょっと面白いかなと思うんですけど、そういうのとか、色合いの野菜の数が、昔からよく言われているのは、5色使いましようねとか、最低3色使いましようねとか、そういう色合いのところとか、楽しめる食事が提供されているのかというところが入院生活には関わってくるので、そういうところ、議会ができることと、行政にお願いすることと、指定管理者ができることというのが、ちょっとできる区分が違うと思うんですけど、それを皆さんと課題に対しての手法を仕分けして調べることによって、会計も、このアンケートに書いたから改善できたよね、給食も、市民の声が議会に届いて改善に向かっ

ているよねというのが見えると、このアンケートを5年とか続けていく意味があるのかなと思ひまして、ご提案をさせていただきました。以上です。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

今ざっと提案書の内容をご説明をいただきましたので、ここからは、ちょっと質問も含めまして、いろいろと議論をさせていただけたらなと思っておりますので、どなたからでも結構ですので、ご自由に発言いただけたらと思いますが、どうでしょうか。

どうぞ。

●藤田委員 そもそも、この市立病院評価委員会が立ち上がった経緯というのは、直営から指定管理者制度に変わって、それで医療の質等も含めて、落ちていないかどうかというのをしっかりと議会のほうで見ていこうという趣旨というふうに私は認識しております。そういった意味において、今回のアンケートというのは非常に大きな意味があって、直営のときと指定管理者制度移行後の両方のご意見を市民の方、利用者の方からいただける最初のアンケートだというふうに思っております。そういう意味において、直営と指定管理者で比較をしたときに、大きなマイナスがあるところについては、これはやっぱり委員会としてしっかりと見ていかないといけないというのが1点。

もう1点、自由記述についてなんですけれども、これも、事前に市民の方からアンケートを取って、どういう項目が必要かというのを、委員長中心に考えていただいたものがここに記載されているけれども、果たしてそれが足りているのかどうかというのを自由記述を見て、いや、こんな意見が、新たな意見がたくさん出ているから、これをアンケートに加えないといけないんじゃないかというような議論をするために、僕は自由記述があるというふうに思っている。今、浦川委員がご提案いただいたものについては、食事についても、もしくは会計についても、ともにこれはアンケートの中に含まれている。かつ、直営時代と比較したときに、大きく劣っているというわけではないということなので、私的には、なぜこの2つを抽出したのかというのを非常に疑問

に思っております。以上です。

●中嶋委員長 何か抽出した理由みたいなんで。

はい。

●浦川委員 一応、入院中の食事についての評価は、やや不満が10.2%、不満が7.4%と集計のほうでも出ているんですけども、それを回答している人がどんな人かなって原本を見ていったら、全ての層に関わっていて、あとは、直営時代よりも数値が悪くはなっているので、そこを取り上げました。お答えになっていますでしょうか。

●藤田委員 それでいくと、直営より若干下がっている項目って、ほかにも幾つかあると思いますし、大きくというか、上げられたその2つよりも低い数値のものもあると思うんですが、それではなくて、その2つというのがよく理解ができないところでございます。

●中嶋委員長 ちょっと補足をしますと、15ページですね、設問の27が入院中の食事への満足度ということになっておりまして、直営のときと指定管理になってからというふうに2つに分かれているんですけども、ちなみに、やや不満と不満を足したものの増減をいいますと、直営時代のほうが数値の割合は高い、1%だけですが。なので、この数字から直営時代との比較において食事が悪くなったということは読み取れないというのが、まず客観的な見方だと思います。

一方で、初めに、アンケートの項目を考えたときに、この食事と会計というものが一定利用される方にとってのストレス値に直結するものなのだということは、これは何か特記なことではなく、恐らく一般論としてという意味合いも含むと思うんですけども、恐らく病院の会計で待たされるという行為であったり、食事が自分にとっておいしいと感じないということが、非常にストレスフルに感じるということとは、もう評価の項目を考えた段階で分かっていたことですし、恐らく多かれ少なかれ、どの病院においても同じような傾向が見られるものだと。要するにほかの項目と比べて、恐らく満足、やや満足が低いということがその表れだというふうに思うんです

が、そういう項目であるということがまず客観的な認識だと思っています。

それを前提にすると、直営時代も、その満足度は低かったというのが、まず客観的な認識、かつ指定管理者制度に移行した後もそれは変わっていないというのが客観的な認識だと思います。加えて言うと、4ページのところの設問4、5で、4月から指定管理者に運営が切り替わったことをご存じですかという質問と、その指定管理者が協和会さんであるということをご存じですかという設問がございます。これは、答えた方の中の割合ですので、ざくっと言うところちょっと語弊があるんですが、大体半分の方は指定管理者制度になっていることをご存じない、4割ですね、4割の方は知らない。全体の半分の方は、協和会さんが運営されていることをご存じないということですので、今回のこのアンケート結果をこの点とクロスすると、必ずしも今言った会計とお食事への不満が、指定管理者になったからということ、もしくは、その協和会さんが運営されているからということとは必ずしも直結しないというのがまず客観的な見方としてもあると思います。ただ、知っている方もいらっしゃると思いますので、それを知った上で、そういうふうにお答えいただいている方もいらっしゃると思いますし、自由記述を書かれている方については、恐らくそういう傾向、知った上で書いておられる方のほうが傾向的には多いのかなというふうには思っています。

ちなみに、指定管理者制度移行前も、会計でいうと、自由記述が8件、食事でいうと、自由記述が2件、マイナス評価としてございます。一方で、指定管理者制度後は、会計が13件、食事が6件ということですので、この単純な数値でいうと、移行後のほうが自由記述の割合は高いということは、先ほど言ったように、知っておられる方の中で書かれている方はきっとそういうイメージで書かれているんじゃないかなという傾向を示しているのかなというふうに思います。

ですので、今、藤田委員が言われたように、現状の認識として、指定管理者になったからストレスが

多くなっているという傾向は、数字上は見えないと。そもそも論として、その項目に対して市民の方がストレスを感じるということが多いということかなとは思っています。

ごめんなさい、ちょっと口を挟んでしましまして。ちょっと前提を共有しといたほうがいいかなと思ったので。

ほか、どうでしょう。

どうぞ。

●山根委員 会計とお食事を抽出されたわけですが、なぜ時間がかかっているのか、なぜおいしくないのかというところを深掘りすると、何か冷凍だからとか、そういうのはちょっと論外で置いて、いろんな状況の方がいるじゃないですか。先ほどちらっと、揚げ足取るようで申し訳ないんですが、学校給食、保育所の給食と比較してということですが、やはり健康な方が召し上がるお食事と病気の方の塩分を控えたり、栄養士さんがこの方にはこれしか口に入れてはいけませんという部分がありますので、一概に比較することはできませんし、なぜおいしくないのかという、ちょっとそのおいしい、おいしくないという指標で物事をはかてはいけない分野じゃないですか、病院って。

妊婦さんとかだったら、栄養をたくさん取らないといけないので、とてもおいしいお食事が出ると思うんですが、例えば病院の何かレストランがもう物すごく著しくまずいとか、そういうのはちょっと改善してほしいなと思いますけれども、なぜ会計に時間がかかっているのか、町医者内科とか眼科とか、小さな規模の会計の時間と比較したら、それはそれは長く感じると思うんですね。それで、同じ一人の方が幾つもの科を受診されていたら長くなるでしょうし、なぜ時間がかかっているのかというのと、なぜおいしくないのかというのを深掘りしないといけないと思うんですね。

なので、一概にこの病院が長いんだ、この病院がおいしくなくなったんだというのは、ちょっと違うような気がしますので、そこを改善させるというよりも、例えば、今、自動の精算機になっていますの

で、その精算機を増やすであつたり、それはもう指定管理者と協議して改善できる分もあろうかと思えますけれども、これは今後、スケジュールが後で出てくると思うんですけど、この議会のアンケート結果であつたり、協和会が考えることかもしれませんので、という抽出する項目の何をどうしていきたいのかというのがちょっと私にとったら分からないんですけれども。腎臓が悪い方にそんなおいしいお食事って、すごい難しいと思うんですよ。何をもらっておいしい、まずいかというのがね。そこを考えてさしあげないといけないんじゃないのかなというふうに思いますけれども、そこら辺はどうお考えなのか。

●中嶋委員長 どうぞ。

●浦川委員 すみません、ほかの病院のアンケートとかで見ていたら、結構食事に関する満足度が38%満足とかいう意見もありましたし、減塩の腎臓が悪い方とか、おかゆ、重湯みたいな給食になっている方からは、塩分が入れられないから、どういうふうに工夫されていますかというのも、今日提案するので聞かせてもらったら、レシピとかは、うちはとっても工夫していて、そのレシピだったら家でも作って、もし在宅に移ってもそういう食事を提供していたら、今まで食べられなかったけど、ここの病院だったら食べれたというふうなお声もいただいているというのと、普通のアンケート調査でも40とか、いい数字をたたき出している病院もあったので、そこと比較して、何が箕面市立病院と違うのかなというところを深掘りするのはここでもできて、それを処置というか、対応するのが指定管理者なのか、市なのか、市と協議してもらうという形を取るのかというのはこれからですけど、何でそうなっているのかというのは、ここのアンケートに書いたら伝わるかなと思った受診している患者さんとかご家族がいるので、その声を拾って、追究していった調査するのは、この委員会ができるんじゃないかなと思って、ご提案させてもらったというのと、ここの委員会は、病院をこれからさらにいい病院にしていこうためのステップの場所だと思うんですけど、ロコミとかで、すごい食事がおざなりだから、絶対にここには入院

したくないとか書かれて、結構閲覧数が上がると、患者さんが離れてしまう可能性もありますし、会計が、私の記憶が正しければ、皆さん、過去の委員会記録でも、すごい会計が遅いけど、最近改善してきて、すごい回転が速くなりましたねというやり取りが昔の委員会であったのと、自動精算機の話がありました、機械が3台ぐらいあったんですけど、最近、布をかぶっていて、1台ぐらいしか動いていないなというところも見受けられたので、自動精算機にたどり着けるデータが飛んでいるんだったら全部動いていると思うんですけど、何で1台だけになっちゃっているかの理由とかも、私は把握をしていないので、そこら辺をなぜそうなっているんですかって聞くのは、この委員会で行えるんじゃないかなと思ったので、その点が多分、利用している患者さんとか家族に一番直結するところで、あとは、多分ほかにもおトイレとか、駐車場の話とかもありましたけど、やっぱり一番、患者さんとか家族がすごい気になるのは、なかなか会計が終わらないとか、入院中で動くこともできないし、コンビニも下にしかないのに、食事もおいしくなかったら、じゃあ、この病院でどうしたらいいのという気持ちがすごいあるなというところが、このアンケートからは読み取れたので、そこをどう解決していくかはまだまだ掘らないといけないですけど、どうしたいのというのは、何が原因なのというところは、ここで追及できるかなというふうに考えています。

●中嶋委員長　ありがとうございます。

ちょっと補足いただきたいんですけど、一応アンケート評価を見ますと、食事に対してのプラスの評価は、やや満足以上を足しますと31.6%になっています。逆に、おいしくないというふうに感じていただいた方が17.6%ですので、その40%以上の病院がどのくらいあるのか、どこなのかは、ちょっとよく分かりませんが、それが数字だけを見比べたときは、恐らくそこよりは低いということだと思うんですけども、今それを比較されるということが含まれていたんですけども、先ほど山根委員からもありましたように、おいしいと感じるかどうかは、そのときの

答えられた方がどういう状態だったかということと、その状態の方に対してどういう食事が提供されたかということに依存すると思うんですね。つまり、単純に健康な状態の人が100人食べて、おいしいか、おいしくないかということではなく、基本はその人の状態に合わせた食事が提供されているという前提の下だと思うんですね、病院食の場合は。それを前提にしたときに、比べるとなると、その状態が分かっていないと、その比較のしようがないと思うんですよ、基本的には。ということで、比較をするということの中身をもう少しご説明いただけたらありがたいなと思っているんですけど。

●浦川委員　比較をするというのも、病状もあるんですけど、49ページの44番、骨折で入院したがという人によると、「何より食事が不味くて酷い。入院中の他の患者からも食事の話がかなりでていた。栄養士を呼んだ方から聞いたが、冷凍なので仕方ないと言われたとのことで、プロ意識のなさにびっくりした。近隣病院の食事をぜひ学んでいただきたい。次回は市立病院以外を選択したいとさえ思っている。」と、この方は体が悪いんじゃないくて、足を折られたか、入院されているので、下半身か、大腿骨かなって思うんですけど、お体じゃなくて、お体ですよ、運動機能のお体やけれども、内臓機能じゃなかったの、塩味とかは普通だと思うんですけど、そういうふうに言われていて、栄養士さんに言ったら、栄養価は合っているけど、冷凍なので仕方ないと言っているの、冷凍食品なのか、クックチルって今結構レベルが上がっているものを使っているのか、野菜とかから切っているのか、調理過程は私は分からないですけど、どのやり方でこの味に完成されているのかというのが、直営からの業者さんがやっているのか、替わったのか、そこももう一度確認すべきですし、調味料の味とかもあるかもしれないんですけど、その食事にかけているコストがどれだけのものかというのがやっぱり味にも出てくる可能性があるのかなって思うと、病状にもよるといえるのは、それはそうなんですけど、骨折している人が言っているなというのがありますし、この方が

書いているように、次回は市立病院以外を選択したいという人が、この人以外にも今後増えていったら、せっかく新しい病院を建てるのに、建てても患者さんが来なかったらどうなるのかなと思いましたので、改善できるところは旧病院の間に改善していったら、ハード面じゃなくてですね、建物とかに関係ないところは改善できるんじゃないかなということで提案しています。

●中嶋委員長　ありがとうございます。

食事の満足度がそんなにほかと比べて高くないというのは事実だと思うので、おっしゃるように、その質を上げていくという議論であったり、市立病院として、そこが評価につながる一つであるということ、そうだと思うんですけど、じゃあ、それを深掘りするという提案を今されている中で、ちょっと曲解かもしれませんが、今の話は、この書いた方が元気、要するに骨折はしているんだけど、身体的には元気なんだと、つまり、通常健康な方と同じ食事を欲しているんだということであった場合、今の病院の栄養価だけを計算されているかどうかは分かりませんが、塩味が薄かったりとか、調味料が十分入っていないという食事がおいしく感じないというお話だったと思うんですけど、曲解すると、その行き着く先は、1人ずつに食事をオーダーメイドしないといけないということになると思うんですけど、そこまでいかなかったとしても、要するに食事の種類をとことん増やしていかないと、おいしさの評価が上がらないという話になると思うんですね。それを深掘りというイメージがちょっと湧かないのと、ちなみに、今、自由記述を書いていた方の中で、追加調査に向けてご連絡先を開示いただいているのは1件だけなんです。なので、その1件だけを捉まえて、今の議論のための調査をするということは、あまり現実的ではないのかなという部分もあるので、何か比較すること、もしくは、おいしさの程度が何なのかということ、それが行き着く先のゴールが何なのかということが、ちょっとイメージとしてあんまり湧いていないんですけど。

どうぞ。

●浦川委員　お答えになっているか分からないんですけど、学校給食とかの場合は、ある程度の値段である程度の皆さんがおいしくなってしまうように作られていると思うんですね。そこから、入院状態とか、健康状態もあって、塩味を控えるというのは、塩分を入れないために、別の工夫とかをするというところが、プロとしての技術職の調理師さんであったり、栄養士さんのたくみのところかなと思うんですけど、そこら辺をしているのか、していないのか、ほかの、さっき事例に挙げた市立豊中病院とかだったら、色合いをよく見せたり、5色を使うようにしたり、お皿との色味とか、季節のものを入れるようにして、目で楽しんで、全部完食できなくても、食事で和らいでもらいたいなというところを方針にしていますみたいなことをお電話で聞いたりもしたので、箕面市も食を結構推進しているまちだと思うんですけど、病院もその一部として、しっかりやってはどうかなというところと、1件だけを深掘りするのはどうかというところだったんですけど、通年で、両方、直営時も、今も利用していますよというのが多分1件だけというご指摘かなと思ったんですけど、委員長のは。今、指定管理になって入院されたり、ご利用いただいている方の連絡先を記載されている人もいて、入院しているな、入院はしていなくて、外来だけだなというのが明らかに分かるような回答だったので、せめて入院した人にも、お食事はどんなが出ましたかとか、どんな食事だったら食べたいと思いますかって、それが多分、入院患者の主観的なところかもしれないんですけど、簡単なところを聞か、どういうメニューがおいしくて、どういうメニューがおいしくないって感じましたかというところに、多分、おだしの、ハンバーグとかはちょっと今出ているか分かんないですけど、ハンバーグとか何かの煮つけとかだったら、味つけとかもあるかもしれないんですけど、おみそ汁とか小鉢みたいなところがおいしくないというんだったら、やっぱりプロのところが足りていないのかなとか、全体的にどれも同じ味で食べられないというんだったら、全部レトルトを使っているのかなとか、そういうと

ところで、栄養価だけで食事が提供されていて、食事代というのは病院は決まっていますよね、高級なところ以外はほとんど一律で、こんなに味に差が出るのは、やっぱり食に対しての病院の意気込みというところが出るかもしれないので、そこら辺は、例えば、別に地産地消の野菜を使えとかは言わないですけど、そういう習慣、別に、さっき委員長が言ったように、メニューをいっぱい増やせとか、そういう意味でもないですよ。民間の病院だったら、パンにしますか、ご飯にしますかって選べる病院もありますけど、そこをやれと言っているんじゃないで、ほとんどの人が、これなら食べて納得するとか、食事も医療の一つだと思って食べられるような内容が今出されているのか、過去も出されていたかは調べないといけないと思いますけど、そこをもうちょっと改善するだけで、皆さんの病院に行く、市立病院を紹介してもらいたいな、市立病院を紹介されてもいいかなと思うハードルが下がるのであれば、市民の税を入れて造っていて、運営しているんだから、大事じゃないかなというところの本当の初歩の観点です。

トイレとかハードもありますよ、動線とかもあるんですけど、それは建て替わったら変わると思うので、まずは、患者さんが受ける手前というか、一番接するところを改善していったら、イメージがよくなっていったり、お友達にも、あそこ、会計もいいし、ご飯もおいしいし、先生もいいから、入院したらという話にもなるかもしれないので、もうちょっと議会が責任を持って調べたらどうかなという提案です。

●中嶋委員長 一応言っていることは理解しているつもりなんですけども、まず、前提として、先ほどから給食というふうに言われて、給食を前提に比較されているんですが、給食と病院食って同じではないと思うんですね。給食の場合は、育ち盛りの幼稚園、保育所、小学校、中学校の子どもたちが、当然成長に必要な栄養価を取らないといけないので、その取るということにおいて、一律のメニューの中で、よりおいしいものを追求するというのが今の学校

給食の評価につながっているんだと思うんですね。これはあくまでアレルギー対応を除いた場合、メニューは一律が前提だと思うんですね。

一方で、先ほど言ったように、じゃあ、深掘りするというこの中身が、仮に入院経験がある方にどんなメニューだったら食べたいですかと、どんなメニューだったらおいしいですかということを仮に聞いたとして、その中で何か突出したメニューがあったら、それを採用したらいいんじゃないかみたいなこともあるかもしれませんが、基本的には、何をおいしいと感じるかは主観だし、そのときの状態なので、その議論を積み重ねていく先は、先ほども言ったように、メニューの段階とか種類を増やしていくというのがゴールになるはずなんです。なぜなら、入院をされている方の中で、例えばおかゆの方は当然いますよね、絶食からおかゆに上がる段階の方。そこから何段階か上がって行って、マックスの状態、その場合はもう退院する手前かもしれませんが、何段階か、今でも食事の種類ってあると思うんですね。そこに対して、個別のニーズからそれを改善していくという話になると、それぞれの好き嫌いも含めて、メニューをカスタマイズするというのが結論になるはずなんですよ。分かりますか、言うている意味が。なので、今どういう調査をするか、それがどういう意味があるのかということを考えるときに、この項目に対する今の提案の中身を個別の人に聞くと、メニューが分散するという答えに行き着きませんかということを聞いているんです。

どうぞ。

●藤田委員 いや、そもそも我々、この評価委員会、アンケートで出た傾向に対して、課題があると委員会で判断したときに、その課題を市や、もしくは協和会さんに対して、課題解決に向けて取り組んでもらうように指摘をするというのが本来の我々のあるべき姿だと思うんですね。そのアンケートの傾向にないもので、こうやったほうがよりよくなるんじゃないか、ああやったほうがいいんじゃないかというのは、僕はあくまでもこの評価委員会の枠組みからは外れているもんだというふうに思っております。

す。

もし、そういうことを協和会さんにどっかの機会
で伝えたいというような場があるとすれば、この評
価スキームの中で、協議の場というのが設けられて
いるんで、いや、例えば会計については、より速く
なる方法とかいうのは考えておられるんですかとか、
食事については、どのような形で献立なり、メニュ
ーなり、入院患者さんに対して少しでもおいしく思
ってもらえるような取組はされているんですかとい
う形で聞けばいい話で、わざわざこの枠組みを外れ
て、プロジェクトチームみたいなのをつくって、そ
れに対して我々が取り組んでいくというのは、この
評価委員会の枠組みからはちょっとあまりにも逸脱
しているんじゃないかなというのは聞いていて思い
ました。以上です。

●中嶋委員長 ありがとうございます。失礼しまし
た。

どうぞ。

●金森委員 すみません、私はアンケートを初め見
たときにびっくりしたのが、半数ぐらいが指定管理
になっていることを知らなかったということにまず
驚いたんですけど、それは置いといて、今のお話で、
このアンケートを見てみて、浦川委員からのご提案
を聞いていて、一定、病院についてというのは、民
生常任委員会でも議論はできるんですけども、今
言っていたような、例えば給食の話であるとか、会
計であるとかというのを議論できて、みんなで調査
できるというのは、この病院評価委員会の場なのか
なと思ったんです。

会計なんかは、病院にかかられた方々全員に関わ
ってくる問題ですよ。浦川委員の提案のときに、
なるほどなと思って聞いたんですけども、システ
ムが替わったからなのか、人が替わったからなのか、
その原因をやっぱり調査するということで、これか
ら一定、どういうふうに改善していくかという見通
しも持てるのかなって。一過性のものだったのか、
本当に根本的に何か改善を求めているかといけな
いものなのかどうかということを調査することは大
事なことかなって思います。それができるのがこの

病院評価委員会の、今のところでいえば、それがで
きるとしたら、この病院評価委員会しかないのかな
というふうにも思っています。

給食の件なんですけれども、私の勝手な想像なん
ですけど、一人一人にカスタマイズするというより
も、例えば学校給食であるとか、保育所の給食とい
うのは、おっしゃるように、育ち盛りなので、栄養
価の高いものをメニューとして組み込んでいるのは
確かにそうなんですけれども、もう一つは、できる
だけ薄味に慣れさせましょうという、調味料とかに
もやっぱり箕面市はこだわって、いろいろ調理員さ
んは工夫されて、どうやったら薄味でもおいしくと
か、考えてはると思うんですよ。それが1点と、
あと、言ってはったように、子どもたちが見たとき
に、あつ、おいしそうという見た目もすごく大事や
なって。味の濃さ、薄さも大事やし、見たときに、
あつ、食べてみたいって思うということを大事にし
ていると思うんです。実際、私は、現場にいたとき
にそうやろうなと思っていたので、そうやと思うん
ですね。だから、そういうふうに、薄味であったと
しても、病院食なので、それこそいろいろ状況によ
っては、おかゆしか駄目なんだ、それはちょっとお
いしくないから我慢、この期間は我慢しなきゃいけ
ないよねということはあると思うんですけども、
一定この期間になったら、普通のものが食べられる
ようになったら、薄味だけでも、見た目もきれい
でおいしいものが食べられるというのが、入院生活
の中でも数少ない楽しみの一つかなと思ったときに、
それが、そのことについて評価があんまりよろしく
ない評価が出ているということが、自由記述も最終
パーセンテージもちょっと、ご飯については、やや
不満、不満というのが上がっている。

実際、皆さんもそうやと思うんですけど、私自身
もこれまで、アンケートとは別にですよ、入院され
た方とかからも、ちょっとおいしくなくなっている
んだよねという話は聞いたことがあるので、この結
果を見て、ああ、なるほどねというふうに落ちた部
分もあるんですね。だから、どういうふうになって
いるかをまず知ることと、そこから何を求めていつ

て、提案書にもあるように、市としてできるのか、指定管理者に求めるのかというのを検証していくのに大事な提案やなどと思って聞いていました。

給食の件に関しては、私の見解は合っていますか、違いますか。すみません、勝手な思い込みやったら。

●中嶋委員長　ちなみに、給食をすごく比較で出されているので、同じことを言いますと、給食も、子どもが全員満足して食べているわけではないんですね。そもそも、過去にも議論があったように、残飯の量とか、そういうことを考えたときに、一人一人の子どもの成長具合であったり、その日の状態であったりということに、おいしいか、おいしくないかは別として、給食を食べられなかったということはあるわけですよ、実際問題として。それは、給食であっても同じことなので、給食と同じようなことをめざして病院食を考えていくということにそもそも無理がないですかということを皆さん疑問に思っていると思うんですね。

病院食の評価が低いということは、そのとおりだと思います。そこは別に誰も否定されていない。今の段階を言うと、本来は、これがサイクルとして回っていくと、前年以前のものと、その年のアンケート結果に突出すべき事項がないかということを確認していく作業が、藤田委員が言われたように、本来の作業だと思うんですね。今回は、1回目のアンケートで、ほかに比較するものがないので、少なくとも今の中で傾向として比較するという点においては、指定管理前と指定管理後が比較の対象にはなるかなということで、今回のアンケートの見せ方として、指定管理前と指定管理後を分けているんですね。その際においては、先ほど言ったように、食事についての傾向的なものは、数値上からはないんです。拾っているのは、自由記述の中のご意見を今拾っているんですね。

なので、これが藤田委員が言われたように、傾向的に指定管理者になってから悪くなっているというなら、今の議論は分かるんです。ただ、自由記述なので、それは個人の受け止め方が考え方に入るんじゃないですかと。その自由記述から、そのメニュー

のめざすべきよしあしを考えてしまうと、その人の状態にとって何がおいしいと感じるのかは、非常に個人的なことになりませんか。かつ、先ほど言ったように、それを深掘り調査しようというご提案の中身が、入院経験のある方にどんなメニューならおいしいですか、食べたいですかということを聞くということなのであれば、その個々のばらばらの受け止め方を、究極を言えば、全て反映しないと、そのめざしている姿にはならないんじゃないんですかということを、提案内容に対しての質問として聞いているということですね。

なので、ここに課題があるということは別に誰も否定しないし、ずれていないと思うんですね。そもそもほかの項目と比べて満足というパーセンテージが低いというのは、会計もそうですし、食事も、見てとれるのは、やる前から分かっていたことでもありますし、実際取ってみて、ああ、やっぱりそうなんだなという認識は皆さん一致だと思うんですけど、どういう深掘り方をするのかとか、深掘ったものをどういうゴールに向かってやるのかということの中身がちよっとイメージできないということです。

どうぞ。

●浦川委員　メニューって言ったのが悪かったんですけど、見た目はいいですかぐらいやったら聞けるかなと思っていて、いや、全部茶色いのが毎日、毎食、全部出てきているかもしれないし、シヤケが出ているのに茶色いというパターンだったら驚く方もおられるかもしれないので、色味で全然食べたい気持ちだが、それは個人差という話もありましたけど、人が食事をするときに色味って大事ですよって学んできているとは思いますが、色盲で見えませんよという方もいるかもしれないんですけど、だから、見た目の件は深掘りできますし、食事の件だけを深掘りするんじゃないくて、会計においても、どういうところで、ぱっぱって出てこないわというのは、患者さんの数も多いと思うんですけど、さっき金森委員が言っていたように、私はずっと指定管理になってから、何でこんなに会計が長いのかという話を、この委員会じゃなくて、外でもよく聞きますし、会

計だけですごい待って、もうあそこで座るところがなくて、気持ち悪くなったわという話もよく聞くので、それが、このアンケートをしようかなと言ってしてくれた人と、無作為に送った方の中でも出ているから、ああ、私がまちで拾ってきた声とアンケートで出ている声も一致しているし、それが一番、市民が病院を使うときに関わる場所かなということ、こういうのは提案しないでおきましょうねというところにも引っかかっていない要件だったので、ぜひとも皆さんで検討したら、ああ、議会はこういうアンケートに書いたらちゃんと調査してくれるんやなということが市民にも届くかなというところでご提案をしたので、別にメニューをいっぱい増やせとか、そういう意味でもないですし、さっき言ったように、聞く人が1人、2人、3人に限定されるのであれば、じゃあ、この自由記述を書いて、連絡先を書いている人に聞くというのはちょっとやめて、こういう系統の人だけにもう一度聞いてみるとか、今、病院の中でアンケートが行われていて、食事に対しての評価がどうなのかというような今取られているデータがあるんだったら、それから見比べていてもいいでしょうし、ちょっと私の提案しているものより、こういうのがいいよって、皆さんもっと知識があると思うので、ご提案していただいたら、より市民のための病院づくりに寄与できるんじゃないかなというところでご提案しているということで、別にメニューを増やしてほしいとか、そういうことは思っていないので、ちょっと私の表現が悪かったので、そこだけ補足します。

●中嶋委員長 メニューのことを言うているわけじゃなくて、深掘り調査を何のために、何のゴールをめざしてやるのかということが分からないという話をしているので、先ほどの説明を聞いた限りでは、そのアンケートが行き着く先が、少なくともメニューを増やすという改善に結びつかなければ、設定している満足度は上がらないんじゃないかということを知っていましたね。それを、今答えていただいた中でもう判断するしかないの、それはそれでいいとして、ちょっと時間があれなので、ほかに聞き

たいことがある人がいらっしゃったら、まず聞いていただきたいと思います。

はい。

●田中委員 まず、精算機がという話が、最初にかな、途中でありましたが、私は今月、三、四回、市立病院に通っていますが、3台とも全部、精算機は開いていましたので。開いていました。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

●田中委員 それから、食事の話、これは私の感想なので、別に答えとかいいんですけど、すごく主観によるところがあると思います。例えば同じ病気で入院した人が、流動食から退院間際に少しでも固形物が食べられるようになったということで、喜びを感じる人もいれば、それでもやっぱり不満だと思う人もいるということで、もしくは、退院するときも食事制限がかかったまま、食べられないものがあるまま退院しないといけない病気の方もたくさんいらっしゃると思いますので、本気で深掘りしようとするんだったら、私は一つ一つの病気、その病気の過程、全て徹底的に調べないと、これはやる意味がないのではないかなと思いました。これ、ちょっと私の感想です。

それと、1個、これはちょっとお聞きしたいんですけど、アンケートを見ていて、分からなくて。提案書の中に、会計の自由記述のところ、体調が悪く、1時間も待たされるのは拷問って提案書に書いてくださっているんですけど、これ、アンケートのどこにあるのかなと思って、この言葉が。結構鮮烈な単語なので、いや、もし本当に拷問って思っているらっしゃるんだったら、全文がどういう記述だったのかをちょっと知りたいなと思ったんですけど、ちょっと見つけられなかったの、この拷問というキーワードの言葉がどの自由記述に出てくるのか、教えてもらえますか。

●中嶋委員長 いけますか。

●田中委員 ここをお願いします。

●中嶋委員長 何ページのところから引用いただいているのか。

●浦川委員 私が書いているところを書いてあるか

ら、その横に書いてる……。

●田中委員 提案書の中に、浦川委員が出してくれた提案書の表面の……。

●中嶋委員長 表面の一番下のところに、会計事務への評価の自由記述を抜粋していただいているところがあって、3つ自由記述を引用していただいて、怒りと疲弊が記載されていますという記載があるので、その3つのうちの、体調が悪い中、1時間待たされるのは拷問という、この記述がどこの引用なのかということを、ページを教えてくださいということです。

●田中委員 拷問って思われるほどだったらねと思って探したんですけど、見つけきれなかったの。

●中嶋委員長 いけますか。
どうぞ。

●浦川委員 すみません、私が拷問って書いてしまっているのが、ちょっと表現が違うので、ここは訂正させていただきたいと思うので、ご指摘ありがとうございます。

●田中委員 どこのページのどれを引用したかだけ教えてもらえますか。

●浦川委員 引用している中身で、すみません、43ページの24番、会計の待ち時間が大変長く、体調が悪い中、待つのは大変つらいものがありますと……。

●中嶋委員長 「と」とは何ですか。

●浦川委員 というところと、すみません、この引用について、私がまとめていったところから、この拷問という言葉が出てしまったのは、表現の間違いなので、いいですかね、何項目か、私が上げていった中で、拷問という言葉に集約して、打っているときに、こういうふうに表現してしまったので、この表現はありませんというのが1点と、ここは間違っていますというところと、参考になっている内容に関しては、先ほど読み上げたところと、46ページの、だから、ちょっと表現が違いますので。

●田中委員 それは何番、46ページの何番ですか。

●浦川委員 46ページの20番と23番というところがあるんですけども、それも、このようには表現していないので、この表現は間違っていますという訂

正でよろしいですか。

●田中委員 はい。じゃあ、そういう言葉はなかったということですか。ありがとうございます。

●中嶋委員長 どうぞ。

●藤田委員 それ、書き換えるというのは、これ、書いてくださった方へ、大変、僕は失礼なことやと思いますよ。この方々も一生懸命言葉を選んで記述していただいているのに、我々議会側が、その言葉を曲げて書き換えるというのは、これはちょっと書いてくださっている方に、大変、僕は失礼なことだというふうには思います。

●中嶋委員長 ということで、今、ご確認いただきましたが、幾つかの自由記述をまず統合しているということですね。どれかは置いといたとして。統合しているので、その統合の仕方の表現は、浦川委員がこういう表現を使ったという認識でいいですかね。

今言っていたように、仮に自由記述を引用する場合は、藤田委員が言われるように、そもそものアンケート集計も、そういう意図があって原文のまま載せていますので、その点は重ねて取扱いのほうはご注意くださいのと、今言ったところを引用されているのだとしたら、拷問だというのは、かなり過剰な表現だというふうに思いますので、その点も含めて、まずちょっと訂正を、公開資料も含めてさせていただきます。

ついでに、ちょっと僕も、そっちじゃなくて、違うほうを聞こうと思っていたんですけど、その前の、会計に時間がかかり過ぎている、以前の3倍というふうに書いていただいているのは、恐らく46ページのところを引用されているんだというふうに思うんですけども、46ページの中身は、その3倍かかっているということの意味合いは、指定管理前と後という意味ではなく、「大阪市内大阪病院と比較すると3倍待ち時間がかかっていると感じる」という記述なんですけども、それで合っていますか。ここを引用されているということでいいですかね。だとしたら、以前の3倍という書き方は、そういう認識には恐らくならないと思うので、ちょっと今訂正の話が出たので、ついでに、その前のやつもちょっと訂正を調

整させていただきますので、よろしくお願いします。

ということで、今、いろいろ聞かせていただきまして……。

どうぞ。追加ですか。

●浦川委員 すみません、訂正の追加ではないんですけど、給食のところは、だから、味のことと、金額。

●中嶋委員長 金額。

●浦川委員 を確認したいということで。言えていなかったの、例えば3食でトータル……。

●中嶋委員長 費用の問題。

●浦川委員 1,100円とか、1,013円とか。

●中嶋委員長 分かりました。

では、ちょっと時間が想定よりもかかってしましまして、申し訳ございませんが、ちょっと当初は、今日、意見集約しようかなと思っていたんですが、今ちょっと聞いていまして、私の判断としては、8月25日の次回の日に、この提案の取扱いをどうするか最終の意見集約を皆さんからいただくことにしたいと思います。それまでに、今お伺いした中で、幾つか、聞けば分かること、例えばシステムが替わっているのかどうかとか、幾つか、この内容の中に含まれていた中で、聞けば分かることをちょっと確認をさせていただきまして、皆さんに補足の情報として共有をさせていただきます。それがちょっと今日この場でできないので、それを補足でさせていただいた上で、25日の日に最終、この提案についての意見集約をさせていただきたいなと思っております。

もし、今日聞き切れなかった内容についてのご質問がありましたら、今日終わってからで結構ですので、私のほうまでお申出ください。今言った、聞けば分かることの追加情報も含めて、もし聞き漏れていることがあれば、その情報も、提案者のほうに確認をさせていただいて、皆さんのほうに共有をさせていただくようにしますので、それを含めて、最終、総合的に意見集約をさせていただきたいなと思いますので、今日は一旦ここまでとさせていただいてもよろしいでしょうか。よろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

●中嶋委員長 ありがとうございます。

では、取扱いにつきましては、今提案させていただいた形を取らせていただきます。いろいろご質問やご回答をいただきまして、ありがとうございます。こういう議論ができるのがまさに評価委員会であるというご意見はごもっともだというふうに思っておりますが、それも含めて、会派の皆さんのご意見も踏まえていただきまして、最終意見集約をお願いしたいと思います。

それでは、ちょっとレジュメのほうに戻らせていただきまして、残りのやつをやってしまいたいと思いますが、まず、今後のスケジュールについて、別紙3をつけておりますので、その説明を事務局のほうからさせていただきます。お願いします。

●議会事務局 今後のスケジュールなんですが、別紙3をご覧くださいますと、令和8年と令和9年の年間スケジュールがこちらについております。スケジュールの見方なんですけれども、まず、令和8年の7月23日、本日のところが黄色に塗られているところです。スケジュールのほうの縦の矢印は、定例会の会期日程を示しております。縦の矢印で破線になっているものは、例年に倣って、今後、おおむねこの辺りに会期日程があるかなというイメージで記載しております。次に、赤線に緑の四角枠につきましては、評価委員の皆さんに関する動きが書かれているものとなります。オレンジ色になっている枠につきましては、主に事務局のほうで動くものとなっております。

その上で、今回のアンケートのスケジュールを振り返りながら説明いたしますと、まず、令和8年の1月、一番左側の欄を見ていただきますと、オレンジ枠のほうに書いていますとおり、アンケートの無作為抽出のために、去年の12月頃から市の戸籍住民異動室や箕面郵便局との調整を開始してきました。そして、1月23日の第10回の市立病院評価委員会において、アンケートの内容が確定しましてからは、アンケート郵送のための事務作業とか、ポスターなどの印刷に関する作業、医師会との調整等、第1回定例会と並行いたしまして準備を進めてきまして、

4月3日からアンケートを開始したという形になっております。5月20日にアンケートの回答を締め切った後につきましては、第2回定例会と並行しまして、事務局のほうでアンケートの集計作業を行いまして、6月30日に結果を公表したところです。

このアンケートの集約作業のほうは、事務局でもボリュームが大きい作業だったというのもありましたので、郵送分のほう、入力したり、チェックしたり、L o G o フォームでの回答分と合わせたりなどありましたので、来年のスキームの中では、ちょっと第2回定例会前にもう少し作業時間が取らせていただけたらなとは考えているところです。今回の7月23日以降のほうなんですけど、スキームに基づきますと、11月頃に協議の場を実施しまして、12月に評価委員会や互選を行う予定となっております。

続きまして、来年の令和9年のほうのスケジュールを見ていただきますと、今回、800件を超える回答者というのがあったんですけども、さらに認知度を増やしていくということで、回答者数のアップを見込みまして、市の広報紙の「もみじだより」、できれば4月号に掲載していきたいと考えておりまして、そうしますと、4月号なので、大体3月末に各家庭へ配布されると思いますので、遅くとも4月1日にはアンケートを開始したいなということでありまして、令和8年のスケジュールよりも少しずつ前倒ししたいなという想定です。

次回のアンケートも郵送等をするとなりましたら、大体12月頃から市の戸籍住民異動室等との調整を行う必要もありますので、令和9年の1月中頃にはアンケートの内容を確定していただきまして、2月から第1回定例会と並行して準備を進めることとなるかなと考えております。

「もみじだより」4月号に掲載するとなりましたら、2月の下旬には原稿を出したりとか、そういうことがありますので、アンケートの締切りは、4月1日から開始しますので、ゴールデンウィーク明け頃に締め切りまして、集約作業を進めようというような想定で、事務局のほうでは考えております。それ以降のスケジュールは、今年とほぼ同様で予定し

ているところです。

今後のスケジュールについての説明は以上です。

●中嶋委員長 ということですが、今説明をいただきましたが、ポイントだけもう一度補足させていただきますと、まず、今年度のスケジュールの中で、ポイントが2つございます。次回の8月25日に予定されている評価委員会におきまして、今言ったように、今日の提案の最終意見集約もさせていただくんですが、それとは別に、私のほうで最終の取りまとめの案を事前に皆様に提示をさせていただきますので、それについての意見集約も併せてさせていただきたいと思っております。それが1点。

それから、11月に協議の場を予定したいというふうに思っておりますので、日程のほうは、今からの最終調整になりますが、また皆さんのほうにもご協力をお願いする形になりますので、よろしくお願いいたします。実際に協議の場の進め方につきましても、次回の評価委員会の中でお諮りをさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

もう一つが、来年度に向けましたスケジュールが、今、事務局のほうからのご説明をいただきましたけれども、ちょっとここが次の項目も併せたご相談になるんですが、一つは、アンケート期間の前倒しを図りたいなというふうに思っています。それは、今日、浦川委員の提案を判断する上で、僕自身が猶予した点ではあるんですけども、今回は、アンケートを作成するというフェーズが当初に入っていましたので、実際にアンケートを実施する時期が思っていたよりも遅くなりました。その結果、協議の場から逆算した場合の議論の時間がちょっと取り切れなかったというのは、個人的な運営としての反省だと思っております。それもあると、ちょっと一応7月8日に締切りは設けたんですけども、出していただけるなら、取り扱いたいなということで、今日、お諮りをさせていただいた理由にもなっております。

来年度は、同じ轍を踏まないように、その期間を十分取れるようにということを想定すると、アンケートの開始時期を少し早めたいなというふうに思

っています。それを想定したときに、今、事務局からありましたように、無作為抽出の郵送アンケートの取扱いがそのスケジュールに大きく影響するということになってきますので、今日はその点について、皆さんにお諮りをしたいなというふうに思っています。

具体的に言いますと、まず、郵送のアンケートをやめたいと思っています。やめる理由は幾つかあるんですけども、一つは、今回のアンケート結果から見たときに、もともと70歳以上の方、ご高齢の方がスマホでのアンケート回答が難しいんじゃないかということを想定して、世代間のバランスを見るためにも、無作為抽出の紙のアンケートをやろうということになっておりましたが、前々回のアンケートのためのアンケート、今回の初めての評価アンケートを見ますと、年代的にL o G oフォームでの回答ができないということは必ずしも言えないということが傾向からも分かりましたので、前回、病院に紙の設置をするということをやめたのと同じように、今回は、それに加えて、郵送の紙のアンケートをやめたいと思っています。この作業をやめることで、「もみじだより」への掲載の時期を非常に余裕を持って迎えることができますので、そのことも踏まえて、1点、変更をしたいなと思っています。

ただし、先ほども少しご意見がありましたが、本当は答えたかったんだけど、紙でないので答えられませんでしたという方はいらっしゃるというふうに思っています。ただし、その声を拾う場合は、郵送では拾えないというのが前提です。なぜなら、その方に紙の郵送が行くかどうかは分からないからです。ですので、代替案としましては、無作為抽出の郵送をやめる代わりに、この市役所の議会事務局に来ていただいた方に限り、紙での提出を認めたいなというふうに思っています。これが代替案です。

これには、もう一つ理由がございまして、郵送の紙のアンケートは、実は取扱いが非常に難しいんです。なぜかという、マストで答えていただかないといけな項目に漏れがあったり、書き方が間違っていたりということが実は今回の中でもそこそこあ

りました。本来であれば、数に含められないなというふうに思われるものもありました。ただし、今回は、それを何とか無理やり、せっかくいただいた回答なので、1は1として扱いたいということで、数の漏れは生じていないということにはなっているんですけども、本来、正確を期すという意味でいうと、紙の書き方が不十分であった場合、それを含められないということがどうしても避けられないということになってしまいますので、紙で書く場合はチェックが要ります。書き漏れがないか、書き方が間違っていないか。ということを見ると、ここに来ていただくという前提があれば、事務局も含めて、来ていただいた方に書いていただいたことの漏れがないか、間違いがないかということはある程度チェックできるということが前提になりますので、かつ、書きたいと思っている方が直接的にその機会を得られるということです。紙の対応については、そういう形に変更させていただきたいなということを思っております。

という、大きく言うと2点、無作為抽出の郵送をやめるということと、この議会事務局までお越しいただいた方については、紙での提出を新たに認めるという2点をやり方として次回のアンケートに反映させたいなというご提案でございます。それができることで、先ほどの来年度に向けたスケジュールが大分楽になりますので、より認知度を上げて、サンプル数を増やすということも恐らく可能になりつつ、かつ、4月以降の段階で議論する時間も十分に取ることができるというメリットがございしますので、そういう形で今後のスケジュールを進めていけたらありがたいなというふうに思っております。

説明は、ちょっとごめんなさい、長くなりましたが、以上になります。

どうぞ。

●金森委員 すみません、紙のアンケートについてお聞きしたいんですけども、代替案として、事務局に来たら紙をもらう、家で書いて、また持ってきて、事務局でチェックを受けるということですか。

●中嶋委員長 基本的に、持って帰っていただく

いうことはあまり想定しておりませんので、来ていただいたタイミングで書いていただいて、書いていただいたものを漏れがないか等を確認させていただいて、受け取るというのが基本的なスタイルかなとは思っています。なぜなら、持ち帰るということになると、郵送と大して変わらないからです。

●金森委員 だから、その場で書いて、できましたよ。事務局でチェック、オーケーですってなったら受け取ってもらえるということですね。分かりました。

これを、議会事務局に取りに来たらアンケートに答えられるよというのは、「もみじだより」で一緒に広報してもらえるということですか。

●中嶋委員長 取りに来たらということでは、まず、ごさいませんで、来ていただけたらアンケートに答えていただけるということと、ただし、事務局の作業がごさいますので、これを積極的に推奨するかというと、ちょっと微妙だなというふうには思っていますので、どういう発信の仕方をするかは、ちょっと今日の段階では決め切れませんが、またどういう媒体でどういう発信をするかは、皆さんとも相談しながら、最終決定したいなと思っています。

●金森委員 この紙を、基本、持ち帰ってはならないということですか。例えば、ちょっと足が悪くて来れないんだ、でも答えたいんだという方がいらっしやったとした場合、預かって、書いてもらって、代わりに提出ということはできるんですか。

●中嶋委員長 そこは、今のところ、はっきりとこうだというのはまだ決めていないんですが、今の段階で、例えばの話でいいますと、各委員、もしくは、議員の皆さんが直接的にアンケートで答えたいんだというご要望を伺った場合、かつ、その方が直接的に市役所を訪れることが困難だという場合は、それぞれ聞いていただいた議員の皆さんが汗をかいていただいて、ハブとして、そのアンケートのやり取りにご協力いただけるということであれば、もしかしたらそういう方法は可能かもしれないとは思っています。ただ、ちょっと今日の段階で、それをできる、できないということまでは、ごめんなさい、決め切

れないかなとは思っていますが、可能性としては、そういう方法があるんじゃないかなとは思っています。というのは、先ほど言いましたように、できるだけ、書きたいけど書けなかったという声はないほうがいいなということは、一応前提にはしていますので、可能な範囲の中で、できる限りの対応は考えてみたらいいんじゃないかなとは思っています。

どうぞ。

●藤田委員 それやったら、議員が横についていくということであれば、もうそれ、L o G o フォームで回答したほうが、事務局的にも楽になるし……。

●中嶋委員長 そうですね。

●藤田委員 極力L o G o フォームで答えられるような形で、例えば議員が、足が悪いんで、ちょっとこれ、紙取ってきてって言われて、取りに行ってお渡しして、それを中身見て、漏れがないか議員が確認をして、事務局に持ってくるということになってくるんで、であれば、もうL o G o フォームと一緒にやったほうがいいんじゃないかなというふうには思います。

●中嶋委員長 そうですね。理想的なのは、確におっしゃるとおりで、QRコードをお渡ししますので、QRコードのついたものをその方のところへ持って行っていただいて、その方に入力の仕方も含めてフォローアップしていただくというのが、恐らく一番効果的かなとは思っていますので、それも含めて、ちょっと対応は今後考えたいと思います。

どうぞ。

●金森委員 1人、2人やったらできるんですけども、これ、さっきも言ったように、そういうお声をいただいたのは、少ない数ではなかったんです。となると、私一人なので、できたら、前向きにご検討いただけたらありがたいなと思います。

●中嶋委員長 少ない数かどうかは、ちょっと分かりませんが、あくまで今の方法は、議員の皆さんそれぞれが汗をかいていただくということを前提にしておりますので、そのことを例えば違う人に頼んだりとか、事務局にやってもらうということは基本的には想定してませんので、その点だけご理解をよろ

しく願います。

どうでしょうか、今のお話につきまして。

ちょっとタイミング的に、今回、ご了解をある程度いただかないと進めない、要するに、もし郵送を残せという判断になる場合は、今日、その判断をいただかないと、今後の準備が遅れてしまうということがございますので、ちょっと急遽で申し訳ないんですが、今のやり方での意見集約をさせていただけたらありがたいというふうに思っておりますが、どんなものでしょうか。

どうぞ。

●山根委員　なので、今年、来年だけの話ではないので、今年、郵送しました、来年は郵送しませんというデータを取るためにも、一度しないという方法を取って、それで、市役所に来られるのも、書いていただいて、それを待って、提出されて、チェックするという労力と、苦手だなという方がスマホを持っていちゃったら、これを読み込んだらできるんですよという、その読み込ませるまでの、それで進んでいったらいいんですよというものを、委員がその近くにいればできますけれども、その労力と、どちらが負担大きいかなという気はしますので、市役所に来ていただいて、かつ、スマホを持っていちゃらない方は、紙で。スマホを持っていちゃったら、QRコードの、何か読み込み方を教えるぐらいで、あとは、分からなかったらご質問くださいねぐらいでも、そしたら、もう帰れるわけじゃないですか。だから、どちらの負担かをちょっと検証していただいて、どちらが事務局にいいのかなと。

●中嶋委員長　そうですね。恐らく、今言っていたように、やり方の中の濃淡というか、パターンは幾つかあると思いますので、その中で、できるだけ効率的なやり方を、複数でもいいので、取ればいいかなというふうには思っています。ただ、避けたいのは、要するに議員の方が市民の方をここまで連れてきて、あと、事務局、よろしくねということ、例えば避けたいことの一つであるのと同じように、幾つか避けたいパターンもありますので、それをちゃんと洗い出した上で、このやり方のこのパタ

ーンまではオーケーにしましょうねということは、また皆さんと合意形成をしっかりとしたいなと思っております。

どうぞ。

●浦川委員　すみません、今、山根委員が言っていたやり方だと、郵送が復活する可能性もあるということなのでしょうか。

●中嶋委員長　一応、今回はやめますという提案ですが、今後、二度とやりませんという意味合いは別に含んでおりませんので、次のアンケートの結果を見たことで、郵送がなかったことがサンプル数を確保するであったり、その中身を深めるということに不利益を生じていたということであれば、当然、もう一回郵送をやろうという議論は出てくるかなというふうには思います。

ただ、今回のアンケート結果のお答えをいただいた皆さんの状況であったり、今回、ご提案いただいたのは浦川委員でしたので、浦川委員のご提案の内容を見る限り、紙で提出しなければならなかった理由は、私の中では特に感じていませんので、その点も踏まえて、一度、郵送の分はやめたいというご提案をさせていただいておりますが、言うように、それが現時点で今後二度とないというふうなことまでは決めませんので、あくまで次回に限定したという認識で思っていたけたらなとは思っています。

●浦川委員　じゃあ、次回も復活する可能性があるというのも、今認識したんですけど、今回、回答いただいた約11%の人が手書きで返しているという認識だと思うんですけど、前回のアンケートのためのアンケートのときは、93人返していたと、ちょっとこれ、私の手書きメモで汚いんですけど、前回のアンケートのためのアンケートは93人で、今回は83人……。

（「76人」と呼ぶ者あり）

83人郵送して、L o G o フォームで提出したの7で、封筒で帰ってきたの76人なので、全体の11%ぐらいかなというふうに思ったんですけど、その11%の人が紙じゃないと回答していなくて、無作為で送られないと、このアンケートに出会っていなかった

かもしれない人なので、何かそれをアンケートのためのアンケートのときは郵送、無作為抽出して、2回目も、今回、初回ですけど、無作為抽出して、次からやめてしまって、その次、復活するときにはもう人が替わって、人は無作為なんで、替わっているとは思いますが、かぶって一緒にかぶっていて答えられた人もいないかもしれないので、その回答数が、さっき、ロットのそろいかそろわないかという指標がちょっと難しいなと思ったので、やめるとか、復活するという指標をちゃんと組み立ててから、郵送は今回は控えようとか、紙は少なくしようってしたほうが分かり得るというか、説明もしやすいかなというふうに思ったので、一応意見でした。

●中嶋委員長 ごめんなさい、紙をやめるという提案をしている理由は、先ほど申し上げたとおりでして、何度も言いますが、今の分析過程、もしくは、課題の提案内容に対して、紙であるべきという理由は今のところ見いだせていません。これは、皆さんの提案の有無も含めた客観的な事実です。誰に届くのかということを考えたときに、確かに無作為の200の方にこれまでは届いていた。そのうちお答えいただけるのが三、四十%だということは事実です。ただ、それが、数を重ねたから、それがどうなのかということは、基本的には、こういう悉皆でない調査の場合はあんまり関係ございませんでして、基本的にはサンプル数を確保するということが大前提です。それに対して、皆さんのこの間、発言されているニーズは、書きたいんだけど、書けなかったんだという人がいるんだというニーズでした。なので、それは郵送の無作為抽出では解決しないニーズなんです。なぜならば、そのおっしゃられている方に届くかどうか分からないからです。なので、そのニーズに対して直接的な解決策として、先ほど言いましたように、紙で書いていただく、もしくは、L o G o フォームで書いていただくことを直接アプローチできるという手段を先ほど提案させていただきました。

なので、その代替手段を確保した上で、無作為抽出の郵送をやめるということのデメリットは、70代

以上の方の回答が得られないんじゃないかということが唯一のデメリットです。それに対して、結果を見た結果、80代の方であっても、半数以上の方が、結果、L o G o フォームでの回答が可能だったということです。これは、つまり、80代の方にアナウンスをさらに広げれば、今以上の回答が同じように得られるということを示しています。ですので、紙の必要性よりも、全体の効果的な実施方法として、先ほどの提案をさせていただきました。よろしいでしょうか。

●浦川委員 もう1点いいですか。すみません。

わざわざ事務局に上がってくるって、上がってきて、声をかけるってかなりのハードルかなと思うんですけど、それをもうちょっと参加しやすくする方法とかっていうのは、お考えある感じですか。

●中嶋委員長 基本的には、今回やっていただいたように、議長を含めて、いろんな場面で発信していくということをまず前提にしています。特に80代の方のL o G o フォームの回答が増えた要因は、一定そういう発信が前提になっていたり、今回でいいますと、特に三師会の皆さんが宣伝をしていただけたということが比較的、高齢層のL o G o フォームの回答が多いということにつながっているんじゃないかなというふうには思っています。ですので、基本的には、発信を広めていく、要するにこれやってるよ、それに答えることができるよということを認知してもらうということが、何歳の方であったとしても、回答数を増やしていくために必要なことだというのが客観的な事実です。

それに対して、ここに来たら紙を書けるよという手段は、あくまで、先ほどから言っているように、この間、皆さんから出てきた個別のAさん、Bさんのニーズとして書きたかったんだけど、書けなかったというお声があったというご意見でしたので、そこまでしてでも、自分の意見を出したいんだという方は確かにいらっしゃるだろうと。その意欲のある方の意見を取らないということは確かにもったいないので、その意欲のある方がどうしても書きたいということなのであれば、ここまで来ていただけれ

ば、回答が無駄になるというリスクを避けつつ、L o G o フォームを使えばより効果的に、もしくは、最悪と言うとちょっと言い方が語弊がありますが、紙であっても、書いていただくことができるということを想定していますので、何度も言いますが、紙を推奨しているわけではないんです。あくまで、皆さんがおっしゃっていたニーズを取りこぼさないようにということを想定した代替案ですので、その点をご理解いただけたらありがたいなと思っております。

どうぞ。

●山根委員 逆に、今年のほうが書きたかったのにという方が書けていない可能性は高いですね。無作為の数ですので、自分のところに届かなかったわという方だと思うんですよ、紙に書けなかったというのは。なので、確実に書けるんだよというのが次回だという認識なんですけど、浦川委員がおっしゃる、すごい書きたかったのに、でも書きたい、市役所まで来るのが大変だという方の解決策は、無作為抽出の中にその方が入っているということだけしか解決策がなくなってしまうので、もしくは、その方だけに郵送というのが、なかなか考えにくいので、今年は書けなかったのになという方は、どの手段もなかったと思うんですけど、そこは問題視されていませんでしたので、次回、書ける、もしくはL o G o フォームのやり方を教えてもらえる、もしくは、誰か委員にアプローチするということで、積極的な意見は拾えるようになっていくというふうに思うんですけど、どうでしょうか。

●中嶋委員長 どうぞ。

●浦川委員 そういう意味で言っていたんじゃないかと、無作為だと利用したことがある人も利用したことがない人も、無作為なんで、フラットに選ばれるかなというところで、病院に意見を言おうかなというのは、病院を使ったことがあるとか、病院の話を知っていると、病院のことで興味があるという人が多いと思ったので、フラット面というか、使ったことがないけど、アンケートが来たから答えようかなという層がちょっと減るんじゃないかなというの

が1点懸念点と、市役所の3階まで来て、議会事務局にすみませんって声をかけるのはハードルが高くないかなって思ったので、もうちょっと参加しやすい方法、L o G o フォームは無理なんだけど、手書きだったら書きたいんだけど、3階まで上がってきて声をかけるというのは結構、市役所に来る、そのプラスアルファのハードルが高いなというふうに思ったので、ハードルを低くできる方法って何か考えておられたら教えてほしいですという話と、今回、もし紙をやめるんだったら、できれば、私は前回から言っていた点字の何かとかがあれば、点字か、音声の何かがあれば、もうちょっと答える人の幅が広がるかもしれないなとは思ったので、一応確認をしました。

●中嶋委員長 何回も言っているのもう言いませんが、理由は先ほどから言っているとおりです。それが違う、もしくはもう少し変えてほしいということなのであれば、こうあったらいいよねというふわっとした話ではなく、どういう理由で、どういう方法を取るべきなのかということを書いていただかないと、ちょっと判断のしようがないかなというふうには思っています。かつ、基本的に、紙で書くということのハードルを下げるつもりはありません。なぜならば、それにはデメリットが生じるからです。というのを先ほどから何度も言っていますが、まず紙で書くということは、漏れないようにするためには、チェックが要りますって言いましたよね。じゃあチェックは誰がするんですかと。先ほど議員さんにじゃあやってくださいよと言ったら、議員側は、いや、それは限界があるでしょという意見もあるわけじゃないですか。それは、事務局に任せるんだとしたら同じことなので、もちろんマンパワーであったり、事務局の体制が可能な中でやるということがまず大前提になるというのは、当たり前の話だと思います。

その中で、じゃあ何を優先すべき、もしくは何が効率的なのかということ考えたときに、紙で書いてもらうということのハードルを下げないと言っているのはそれが理由です。ですので、そうじゃない

と、そこに対してこういう理由や対案があるというふうに言っていたかないと、話がかみ合わないの、こうあればいいというふわとした話だと、かみ合っていないということをまずご理解いただきたい。

僕は、極めて具体的に、過去の経過も踏まえて、客観的な数字の比較も含めて、この方法を提案しているつもりですので、それが違うというのであれば、そこを明確に言っていただければ、当然、先ほどもありましたが、こういう方法のほうがいいんじゃないかというのは、十分検討したいなというふうに思っていますし、最終、これでいきましょうねというのは、皆さんのご意見も聞きながら決めますねってさっきも言いましたが、そういう形で進めたいなと思っておりますので、今日の時点として、もう確認しておかないといけないのは、先ほども言いましたように、スケジュールの関係上、無作為抽出の郵送をやめるということだけは確認しておかないと、今後のスケジュールが変わってしまいますので、申し訳ないですが、その点の意見集約だけはさせていただきたいというのが初めに言った提案です。

ということを踏まえていただいて、そろそろ時間も押しておりますので、意見集約はさせていただきたいなというふうに思っておりますが、何度か言いましたが、まず、紙をやめるというのは永遠の話ではありません。紙で書いていただけるという手段をどこまでのパターンで、どこまでやるかということはおもう少し皆さんと相談をしますというのが前提です。その上で、やめたいという決定をしたいのは、無作為抽出の紙の郵送をやめたいという提案です。よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●中嶋委員長 すみません、ちょっと時間がないのでまくし立ててしまっ、て、申し訳ないなとは思っているんですが、ちょっと私の進行が悪くて、もう20分ほど時間を超過しておりますので、そろそろまとめたいなと思っておりますが。

一応、皆さんのご了解をいただけたらありがたいなというふうには思っておりますので、いいよとい

うことで、異議がなければ、お声を上げていただけたらありがたいとは思っております。ご異議ございませんか。

どうぞ。

●金森委員 やめる、やめないということで、これから採決しはると思うんですけど、80代以降の方、無作為抽出で送って、L o G o フォームで回答もあったということなんですけれども、なかなか議員が、私たちが紙で書きたかったのという声を聞きましたということを酌んでいただいて、新たな手法を入れていただけたということに関しては、すごくよかったと思いますし、前進やなと思います。

と同時に、議員につながらない方にも届くというのが無作為抽出のメリットでもあったかなというふうに私は思っています。例えばまちなかでポスターを見て、L o G o フォームでやったらいいじゃないかといったら、それがみんながみんな高齢者ができるかといったら、できない。でも、議員につながらない。たまたまここに届いた。よかったという人も中にはいるというメリットも、そう大きくはないかもしれないけれども、あったかなというふうなことは思います。

あと、豊田市のほうに視察行ったときにも、やっぱり高齢者を対象にアンケート取るときは紙が必須だよねということを豊田市の方はおっしゃっていたので、今回はこうやって事務局に来て、紙の分を用意しますということが一つの代替案なんですけれども、これを本当にやめてしまうのがいいのかどうかというのは、私は今のところすごく迷う、郵送をやめるのがいいかどうかというのは、すごく迷いどころだなとは思っています。一回やってみて、どういうふうに来年、検証していくのかというのを、さっき浦川委員が言っていたみたいな指針を持っておかないといけないなというので、そこもこれから議論が必要じゃないかなと思います。

●中嶋委員長 どうぞ。

●藤田委員 委員長おっしゃっていたように、せっかくアンケートを紙で書いていただいたにもかかわらず、中身に不備があるばかりに、今回はそれでも

アンケートの中に数えてくれたけれども、次回以降がそれがカウントされないとなれば、せっかくのその労力が全く無駄になってしまうというところから、アンケート、やっぱり、あれ、全て答えて初めて一つの結果につながっていくと思いますので、そういった意味で、誰かのチェック、もしくはL o G oフォームで、必ず漏れがない、漏れがあっては次に進めないような形にしていくという形でないと、せっかく書いてくれた人の意向が酌めないということになってしまうので、委員長がご提示していただいた、基本L o G oフォームで答えていただいて、どうしてもそれでも紙でないと答えられない方が答えたいんだという方のお声を拾うためにおいては、事務局にはちょっとご負担はいただくことにはなるんですけれども、事務局に紙を置いて、その場でお答えいただき、漏れがないか確認をして、しっかりと1件としてカウントしていただくという手法が一番いいんじゃないかなというふうには思います。以上です。

●中嶋委員長　ありがとうございます。

先ほど金森委員からいただいた、やってみた後に仮に検証はしっかりしたいというふうに思いますし、その検証の結果、やっぱり無作為抽出はあったほうがいいよねというご意見がたくさん出された場合は、当然、次の次々回の手法として、それは検討いただけたらいいんじゃないかなというふうには思っていますが、申し訳ないんですが、無作為抽出が紙であるということには、ごめんなさい、先ほどの説明には何の説得力もないんです。

なぜかという、そもそも豊田市が紙じゃないと駄目だねみたいな話は確かにあったんですけど、その結果は、今回の結果では覆っているんです。80代の方であっても、半分の方はL o G oフォームで答えているというのがもう事実なんです。なので、80歳以上の方は答えられないというふうに逆に言うほうが失礼です。だとすると、四、五十%の方は、L o G oフォームで答えれるという環境、結果が明らかになったんだとすれば、むしろ努力すべきはその母数を増やすということを努力すべき。それは、サンプル数を増やすということが目的なので、そこ

から逆算すれば、例えば今回は無作為抽出の200名の方しか母数がない中でいうと、その方たちが答える、答えないという結果ですけども、それが500人、1,000人の80歳以上の方にこういうアンケートをやっているんだと、皆さんにお答えいただけるんだということを知っていただくことができれば、同じ割合がもし仮に適用されるならば、その回答数はもっと伸びるということだし、結果、より多くの方にお答えをいただけるということになるので、そうなるかどうかも含めて、しっかり検証をしていただくのは必要なことかなとは思っています。

ということで、ご判断をいただけたらと思っておりますが、浦川委員はどうですか。

●浦川委員　じゃあ、私もとても悩んでいまして、出会えなかった人が出会える機会がなくなっちゃうのはどうなのかなというところが一番で、あと、手書きで書きたいという人と、L o G oフォームは、本当にたまに機種によって動かないという、G o o g l eとかだったら、何かセキュリティが強くて動かないというパターンの方もおられるので、それを考えると、郵送がないのはちょっと難しいのかなと思うんですけども、次のときに復活しないことはないというところの検証をもうちょっと丁寧にできるんだったら、今回は作業時間とか、私が今日出したように、議論の時間を取るというのと、もっと多くの人に「もみじだより」を通したら回答数が増えるというところもあるんだったら、今回は試してみたいというのと、あとは、手書きの、さっき提案したらと言われたんですけど、事務局にアンケートしたいよというんじゃないかと、傍聴するよというぐらいの、机にアンケートが置いてあって、書けたらお声がけくださいねぐらいの、もうちょっとアクセスしやすい手法に変えるとかで、代替案を探していけたらいいかなというふうに悩んでおりますが、郵送が絶対なくなるというのじゃないんだたら、今回はオーケーにしておきたいと思います。以上です。

●中嶋委員長　ありがとうございます。

じゃあ、皆様のご意見を踏まえまして、まず、先ほどの提案をご了承いただくに当たって、もう一度

確認しておきますと、次回のアンケートにまず限定をするという点は確認させていただいておきたいと思います。

かつ、今回も、先ほど僕が言いましたように、アンケート結果や回答の状況は、しっかり分析をしています。その上で、今回の手法の提案をさせていただいておりますが、それと同じように、当然、次々のアンケートも、次回のアンケートの結果を踏まえて、やり方についてはご議論をいただけたらいいなというのが2点目。

それから、具体的な紙で取り扱うパターンの濃淡であったり、パターンは、改めて皆さんのほうとも協議をしながら、最終決定をさせていただきますので、またこういうやり方がいいんじゃないかみたいなことがあれば、ご意見をいただけたらありがたいなということを付しまして、先ほどの提案で進めるということにさせていただきたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●中嶋委員長 では、それで決定をさせていただきます。

申し訳ございません、30分もオーバーをしてしまいました、一応、本日のその他以外の議題につきましては、以上となります。

協議事項3 その他

●中嶋委員長 その他の1つ目としましては、次回開催が8月25日の1時から予定をしております。先ほどのスケジュールのところで述べた協議事項を予定しておりますので、今日の議論を各政策会派のほうにお持ち帰りをいただきまして、また必要な意見集約をよろしくお願いいたします。

その他、何か皆様のほうからございますでしょうか。よろしいでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

●中嶋委員長 それでは、ないようでございますので、以上で本日の協議事項のほうは全て終了でございます。大変長時間、時間をオーバーしてしまいました、申し訳ございませんでしたが、これにて本日

の評価委員会のほうを終了させていただきます。どうもありがとうございました。

午後3時29分 閉会

箕面市議会委員会条例第27条第1項の規定により、ここに押印する。

令和8年7月23日

市立病院評価委員会

委員長 中 嶋 三四郎